

大草谷津田いきものの里 自然観察会

オニヤンマを探そう

木下順次（千葉市）

日 時：2010年8月15日（日）10時30分～12時 天気：晴れ

参加者：大人7名 子ども3名

担当指導員：芳我めぐみ・木下順次

とにかく暑い一言に尽きる今年の夏、お盆最後の日曜日にも重なり、当観察会としては「オニヤンマ」の魅力と、猛暑・お盆の連合軍のどちらに軍配が上がるか心配なところですが、10時半が近づいても集合場所には全く参加者が見られず、ややあせりましたが、こんな日にもオニヤンマの魅力に抗しきれない子どもたちが最後には来てくれました。

芳我さんから、いつものようにいきものの里の概要と注意点を話してもらう中で、先日「コーカサスオオカブト」の置き去り事件（カブトと昆虫ゼリーがセットで置き去りにされていたということなので、きっと当人は善意のつもりなのでしょう）があった事を知りました。コナラやクヌギの樹幹に傷をつけ、浸み出した樹液に集まるカブトムシやクワガタムシを集めている輩（業者？）もいるようです。以前なら問題にならなかったのかもしれないこのような行為も、都会の一角にほんの少しだけ残った大草の里山自然では大きなダメージになるのであろうと思うと複雑な思いになります。

観察会では、オニヤンマはもちろんですが、その他のトンボ（ハグロトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボが大半で赤とんぼの仲間がほとんど見られませんでした。）や、セミ類（ツクツクボウシ、アブラゼミ、セミヤドリガに寄生されたミンミンゼミも）、クモ類（コガネグモ、ナガコガネグモ、ジョロウグモ等）、バッタ類（ショウリョウバッタ、オンブバッタ、コバネイナゴ等）、卵をかかえたサワガニなどたくさんの生きものを観察できました。

本日の主役のオニヤンマ自体は谷津田に降りると遠目にもたくさん飛んでいるのがわかります。これは、自分自身の体験とも重なることですが、最初はそれに気づいただけでうれしいものです。しかし、少し慣れてくると谷津田を行きつ戻りつして縄張りのパトロールをするもの、あぜ道の脇の絞り水の流れに対して産卵らしき行動をするもの、樹幹や草にぶら下がる幼虫の抜け殻等、次第にオニヤンマそのものだけでなく、その生活にも興味が湧いてきます。そしてオニヤンマの生活史を丸ごとで見られるこの場所がとても貴重なものであるということがだんだんわかってくるのではないのでしょうか。

虫取りに夢中になっている子どもたちには、事前に捕まえておいたオニヤンマを持たせてみることや、頭の前に草を出すと足全体で掴み口に持っていくことや、腹側の呼吸の様子を見せることで、生きものとしての力強さ・不思議さを実感できたのではないかと思います。

自身でも30代40代になって初めて体験した事ばかり（実はオニヤンマを捕まえたり、その抜け殻を見るという体験はここ2年くらいのことです!）で、今まさにセンスオブワンダーの真っ最中ですが、ぜひ今後も、観察会に参加してくれる方々と一緒に今自分が味わっているこうした気持ちを分かち合いたいと思います。

※谷津田の下手の栗林を道路から見ると、樹液が出ているクヌギが数本あり、カブトムシの♀、カナブン、シロテンハナムグリ、スズメバチ、サトキマダラヒカゲ、そしてオオムラサキなどが樹液をさかんに吸っていました。図鑑によくでている“昆虫レストラン”そのものです。しかし、最初の説明のように、この樹液は故意に傷つけられたもののようです。目の前にあるとても素敵な情景と、それがおかれた現代の自然や生態系の状況を比べるにつけ、素直に喜べないことだけが残念です。